

2026 年度聖学院大学大学院

春期入学試験問題

[文化総合学研究科]
博士前期課程

論述試験（60分）

<注意事項>

- ① 監督者の指示があるまで、この問題用紙を開かないで下さい。
- ② 監督者の指示により、解答を止めて下さい。
- ③ 試験終了後、問題用紙と解答用紙を回収します。
- ④ 机の上には、受験票・筆記用具のみを置いて下さい。
- ⑤ 質問等がある場合は、静かに挙手して監督者を待って下さい。

受験 番号		氏 名	
----------	--	-----	--

同封の論述試験問題について、解答用紙に解答しなさい。

なお、解答用紙に、選択したコース・テーマを記入しなさい。

（例： コース・分野・テーマ [日本文化学 文学 日本漢文]

【設問一】『蒙求』について知るところを記せ。

【設問二】資料①「故宮博物院蔵『蒙求』」の「標題」の八字のそれぞれの四隅に付された「○」の記号について解説せよ。

著作権の都合により非公開

【設問三】資料①は「伏波標柱」の標題に対して『後漢書』を引用している。『後漢書』を
出典とする「引用」において注意すべき事項について述べよ。

【設問四】資料①は伏波將軍馬援の字を「文泉」とし、資料②は「文淵」とし、表記が異な
っている。この点について考えるところを記せ。

【設問五】『蒙求』は二句一対として、概ね同内容の故事を並列させる構造となっている。
当該引用箇所について、両句の共通するテーマについて考えるところを記せ。

引載資料の出典

- 資料① 池田利夫編『蒙求古註集成』上巻／汲古書院／一九八八年十一月／一五頁
資料② 岡白駒『箋註蒙求校本』中文出版／一九九六年三月／四七〜四八頁

著作権の都合により非公開

著作権の都合により非公開

【日本文化学 文学 日本漢文】

資料①(台湾故宮博物院蔵『蒙求』)ならびに資料②(岡白駒『箋註蒙求校本』)について以下の設問に答えよ。

資料①(台湾故宮博物院蔵『蒙求』)／伏波標柱・博望尋河)

著作権の都合により非公開

資料②(岡白駒『箋註蒙求校本』)／伏波標柱・博望尋河)

著作権の都合により非公開

聖学院大学大学院 文化総合学研究科博士前期課程
入学試験問題解答例等

入試実施年度	問題番号	試験科目名
2026 春期 (25 年度実施)	MAJL-A-004	文化総合学研究科博士前期課程専門科目 日本文化学/日本漢文

・ 入試問題解答例等記入欄

【設問】

別紙試験問題「MAJL-A-004」参照

以下、各設問の「出題意図」を記し、解答におけるポイントを記す。

【設問一】

「設問一」は『蒙求』という作品についての基礎的な知識を問うている。

当該作品が元来は四字句の韻文形式の作品で、上二字を人名、下二字を故事、そして二句一對の形式で構成されていること、また、この作品には各句の出典からの引用による注が付されており、これを作者李翰の「自注」とするか、あるいは「他注」とするか、そして宋代の徐子光によって整備された「新注」とそれ以前の「古注」との関係を正しく理解していることを述べる必要がある。また、この注を含む『蒙求』という作品が中国および日本において「幼学」の書として広く普及し、特に日本においては平安時代以降明治時代に至るまで、広く享受され、様々な文学作品におけるその影響が指摘されている。この点については「設問五」に述べる必要がある。採点については基本的には加点法で行い、事実誤認等は加点对象としない。

【設問二】

「設問二」は写本から基本的な情報を読み取る力を問う問題である。

この記号は「声点」であり、当該漢字のアクセント(四声)を明示するものである。この四声(平声・上声・去声・入声)についての基本的な事項の理解を解答に反映しつつ、この声点が日本の写本に施されていることの意味について言及できれば出題の意図に十分に応えていると判断される。

【設問三】

「設問三」は『後漢書』の成立状況についての基礎的事項の理解を問うている。

『後漢書』は「七家後漢書」と称され、その逸文が蒐集されている如く、『後漢書』を冠する八家の『後漢書』が存在しており、現行本は范曄撰『後漢書』(李賢注)であることを踏まえ、かつ、『蒙求』古注が成立した時期にはまだ複数の『後漢書』が残存していた時期であり、現行本と異なる本文の『後漢書』はそれらの逸文となる、この点を踏まえた解答が求められている。

【設問四】

「設問四」は「避諱」によって写本において文字に変更が加えられることを理解しているか否かを問うている。

資料①の「古注」の本文を伝えている写本は唐代の写本の転写本であり、唐代の避諱を受けて「淵」字を代替して「泉」字で書かれていること、それが李淵(唐・太宗李世民の父)の避諱であること、避諱の方法には、①別字による代替、②字画を減ずる「欠画」、③文字を空字とする「欠字」、の三種があることを、等を記述することが必須である。

【設問五】

「設問五」は、「対句」についての基本的な概念の理解とその理解を踏まえた考察を実践する能力を問うている。

当該箇所「対句」構成より、上下句の共通するテーマを抽出し、それを言語化する必要がある。伏波將軍馬援と張騫という時代も人となりも異なる二人の人物のどのような点に注目して「対句」を構成し得たのか、それぞれの注によって情報を保管しつつ、この注に立脚した記述が求められる。